

1日目 クラカウ-3

ネコたちの夜会—「自分は何者か？」から始まる自己紹介—

夜 19 時。

ここでメンバーが全員集まる予定でしたが、
まだ到着していないネコが 3 名（3 匹というべきか……）。

1 名はホテルに連絡あり、残り 2 人も、すでに到着しているメンバーの携帯に連絡が入っており、私のほうにもこちらにちゃんと向かっていると伝わってきました。

*携帯があたり前のように使えるのもまた 10 年前と違うこと……

というわけで、すべてのネコの所在はわかっていますが……

現地集合現地解散！を強行したツアー企画者として、やっぱり心配です。

集まって食事といっても、その時点ですでに 13 名。

ホテルのレストランで食事をとろうかと思いましたが、難しく
気がつけば買い出しして、先生の部屋で飲みながら、ということになっていました！

うきうきと駅前のスーパーで大量の食糧を買う先生を横目に、

「先生、16 人も部屋に入れるの？」と心配になりましたが、

ネコは狭いところが好き。入れてしまえば入るもの。

後から到着した人も仲間と携帯で連絡をとりあって部屋に続々と合流。



先生の部屋で自己紹介タイム！（C）saita

「まずは、自分が何者であるか……」
という先生の合図で、自己紹介タイム。
そうなのです、みんな今日初めて会うのです……
そして、これから3泊4日という旅程を一緒に過ごすのです。
共通点は、立花先生という「古猫（ねこ）」に集った「ネコ」というだけ。

酔いに任せて、先生も饒舌に。
午後みてきたユダヤ博物館、ここに来る前に回ってきたプラハ、ベルリンでみたユダヤ人の
痕跡、何かにとりつかれたように足が重くなった体験などなど。
けど、明日のことを考えて、10時半ぐらいに解散。



だんだんと饒舌になる先生（C）saita

なお、このときに「こねこ」、つまり、立教学部生組のメンバーが
一部いませんでした。

気温 36 度の日本から、気温 13 度になった夕闇のクラカウに降り立った彼は
半袖 T シャツに短パン姿で、駅前で「さみ〜」と震えていました。

あわてて仲間と冬物を買出しにいていたそうです。

*21 時まで開いているショッピングセンターができていてよかったね……

反省：

「ホテル飲み」はベルリンでも行いましたが、
さすがに 16 名となると、食事の量もどれくらい買っていいかわからず、
買いすぎて多くの食品を無駄にしました……
いくらユーロが安かった（当時 1 ユーロ=100 円前後）からとって……
これからユダヤ人の多くが飢えや寒さで苦しんで亡くなっていった
アウシュビッツに行くというのに……本当にごめんなさい……